事例No.	2557
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	若狭熊川宿まちづくり特別委員会

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・移住定住 ・地域運営組織

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

出典

平成26年度ふるさとづくり大賞事例集

若狭熊川宿まちづくり特別委員会　福井県若狭町

概　　要



町並み保存だけでなく住民が快適に住み続けたいと思えるまちづくりを目標に設立。この目標を見据えながら、住民が地域に誇りを持てるようなまちづくりを推進。伝統的建造物群保存地区制度の周知、修理相談等による町並み整備に加え、秋の観光イベント「熊川いっぷく時代村」の運営、空き家を活用した喫茶とお泊り処の開業など様々な地域活性化の取組みが住民主体で行われている。

評価された点



・極めての質の高いレベルでの伝統的町並みを保全しながら、「暮らし続けて、守る」「活かしながら、続ける」地域総ぐるみの活動と合わせて農業と周辺景観の保全と継続活動を実践している。地域づくりとしてのコミュニティビジネスへの取り組みとして、「宿」業や「休憩施設」等、町並み保全の仕方も積極的に成功させておられ、高く評価。
・住民が主体となって、住み続けたい地域づくりをしているところを評価。さまざまな住民主導の活動が生まれており、これからの地域づくりのお手本になる。
・伝統的建造物群保存地区の維持・保存だけでなく、移住促進に取り組み、実績が出ているのは評価できる。

大鹿村立大鹿中学校　長野県大鹿村

概　　要



日本で初めて「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選ばれた「大鹿歌舞伎」。この地の中学生は昭和５０年から、大鹿歌舞伎の伝承事業に取り組んでいる。当初は有志の生徒がクラブ活動として始めたこの事業は、生徒の減少に伴い全校生徒一丸となって取り組み、４０年目を迎える現在では保護者をはじめ卒業生の中からも多数の後継者が育っており、村の人々の願いは着実に実を結んでいる。

評価された点



・南アルプスの奥地で、人口も急速に減少している地域の人々が無形文化財を維持するために長年努力してきたことを評価。
・教育の大切な位置づけとして伝統文化を伝承させることがある。若者も自分たちが担い手だという感覚で当事者意識が強くなると思う。地域の絆をより親しく感じ、外から訪れる価値もある。
・衰退の危機にある、各地の伝統芸能継承の手本となる事例。
・無形民俗財の継承に、地域全体で取り組んでいる点。
・深刻な人口減少と高齢化にありながら、中学校全体で伝統継承に関わり、学生自身が文化の担い手、継承者として育成されている。